

オクラ

草勢はやや抑えつつ、
根を深く張らせる！

タキイ研究農場 ^{かん べ} 神戸 ^{まさ と} 雅人

品種選定

オクラは暑さに強く、厳しい気候下でもポイントを押さえた管理を行うことで安定して継続収穫ができる野菜です。また、オクラ特有のネバネバ成分には、主に水溶性食物繊維が多く含まれ、これによって体に負荷がかかる食後の急激な血糖値上昇を抑制し、かつ、消化器官の粘膜保護を促すため、日々の食事に積極的に加えることで健康促進に効果を発揮するとされています。



↑グリーンソード

生育旺盛な五角莢「グリーンソード」

5角莢タイプでは生育が旺盛な「グリーンソード」がおすすめです。栽培後半まで草勢を維持しやすく、生育が安定するため、イボ果、曲がり果などの奇形果の発生が少なく、良質な果実を継続出荷できます。

ねばねばリッチな「ヘルシエ」

丸莢タイプでは「ヘルシエ」がおすすめです。機能性成分を含む野菜で構成される「ファイトリッチ」シリーズの品種であり、水溶性食物繊維含有量が従来品種に比べ多いため、粘りが特段に強く肉厚でやわらかい良食味が特長です。また生育が旺盛なので厳しい気候下でも継続収穫が可能です。



↑ヘルシエ

栽培ポイント

健全な果実を長く収穫するコツは草勢の一定化

オクラは草勢管理において極端な強弱の繰り返しを避け一定を維持する、また、やや草勢を抑えて管理し続けることが曲がり果、イボ果を出さず良質な果実を収穫し続けるポイントです。株間20cm程度、1穴当たり3〜4株

草勢がやや強め



弱り始めのサイン



適切な草勢



立ちにし、密植によりやや草勢を抑える栽植密度とします。

草勢判断基準として、生長点の蕾の数が4〜5個程度、開花位置の上に3枚以上の葉が展開している状態を維持するように心掛けます。

蕾の数が減少、または開花節位が生長点に近ければ弱り始めのサインですので、速やかに追肥・灌水を行います。逆に、蕾が多く、開花位置が低くなる場合は草勢が強過ぎるので追肥を控え、灌水もしおれない程度の最小量に絞り、適正な草勢へ戻るまで様子を見ます。

元肥は控えめにして追肥のサイクルは1週間に1回程度を目安とします。追肥主体で、草勢の変化を見ながら早めの対応をとることが均一な草勢管理に繋がり、果実品質の安定にも影響してきます。

特性を生かした異常気象下での灌水管理

地中深くに根が差し込むオクラの特性をいかし、干ばつや大雨による冠水に耐えられる株作りを行うことがポイントです。発芽後、生育初期段階で1番花が開花するまでは、なるべく灌水を控え、しおれない程度の管理にとどめることで、より深く強い根張りを促します。着果後はマルチ内がやや湿る程度の適湿を保つように心掛けて管理しましょう。